

2018年11月17日14:00～16:00 [大阪自然史フェスティバル2018](#)
[日本野鳥の会大阪支部](#)主催 (大阪市立自然史博物館講堂)

足環物語を越えて、地域がつながる、世界がつながる

須川恒(日本鳥類標識協会会員、
龍谷大学非常勤講師)

かけだしのバンダーだった私が出会ったのが1978年から79年にかけて京都や岸和田市の久米田池で見つかったロシアリングをつけたユリカモメでした。それをきっかけとして、それから40年間にどのような世界が広がったのか、鳥類標識調査活動がどのような役割をもつのか(についての私の個人的考え)を語りたいと思います(ほかにゲストスピーチあり)

講演内容

- はじめに 講演のきっかけ
+ 標識調査とは
- 足環物語3題
 - (1)ユリカモメの渡り つながりの昨今
 - (2)カモ類の渡り 衛星発信と回収記録(WebGis)
 - (3)ガン類ヒシクイの渡り解明
- 地域をつなげる生息地目録
 - (1)雁類渡来地目録
 - (2)ツバメの集団ねぐら地保護
 - (3)関西標識調査地目録(アルラ誌)
- 世界とつながる話3題
 - (1)世界の標識者の会議 日本鳥類標識協会のアピール
 - (2)標識調査の世界と探鳥の世界 Svenssonの教え ゲスト1
 - (3)世界湿地の日in湖北 ゲスト2

京都・冠島調査研究会 オオミズナギドリの生態と標識調査を中心に紹介
2017年11月18日19日ブース展示 <http://larus.c.ooco.jp/KANMURI.htm>
2018年10月14日舞鶴市赤れんがパークでブース展示



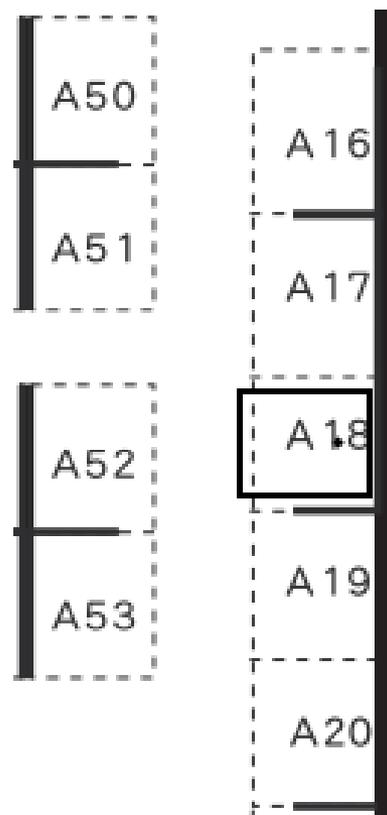
2018年11月17日18日9:30～16:30 鳥類標識調査グループ・関西

ブース番号A18

いままでの総集編のような展示 この講演はその

の説明です 講演内容について詳しく聞きたいかたはブースに来てください

ブースのタイトル『足環物語をこえて、地域がつながる、世界がつながる！』



A 16 特定非営利活動法人日本バードレスキュー協会

A 17 河内長野野鳥の会

A 18 鳥類標識調査グループ・関西

A 19 四万十サイロチョウの森

A 20 サシバプロジェクト in 大阪

A 50 日本野鳥の会京都支部

A 51 奈良つばめねぐらこども研究部

A 52 日本野鳥の会滋賀

A 53 NPO 法人 共生の森

ブースの位置 ネイチャーホール2階
野鳥長屋のひとつ

まずは鳥類標識調査って何かのかんたんな説明

ボックス0 その1

ボックス0	そもそも鳥類標識調査って何(最近の日本の場合)								
鳥類標識調査	Bird banding(米語)	Bird Ringing(英語)							
標識	Band(米語)	Ring(英語)							
総称	Marking(Band 足環・首輪など、 Tag翼タグ、Transmitterなど)								
鳥類標識者	バンダー	Bird Bander(米語)							
	リンガー	Bird Ringer(英語)							
ところで	野鳥観察	Bird Watching、Bird Watcher							
	Birding	Birder (Keen Birder)							
同じ鳥がらみでも	バーダー	鳥をつかまえずに観察のみ							
	バンダー	鳥をつかまえて足環をつけて放す							
	ハンター	一部の鳥をつかまえて食べる							
	バンダー								
	鳥を安全につかまえる→足環をつける→								
	再捕獲(Recapture)される								
	・同じ調査期間同じ場所で(Repeat)、再捕リポート(同日再捕は報告不要)								
	・同じ場所で別の期間(調査者が違う場合もある)(Return)、帰還								
	・別の場所で回収や観察、通常別の人とつながる)(Recover) 回収								

鳥類標識調査ってなんだろう ボックス0 その2

なぜ判るか

国(現在環境省)の事業(足環番号の管理)→ 委託先

公益財団法人山階鳥類研究所に鳥類標識センター(千葉・我孫子市)

標識センターの役割、標識情報の収集・管理

各地に資格(ライセンス)をもったヴォランティアバンダー。

標識の資格はどのように? 1979年からは講習会

各地のバンダーについて基礎修行(※基礎内容は別記)

→バンダーが推薦→講習会→資格取得

毎年の調査計画提出→許可書(パーミッション)がおける

(環境省地方環境事務所単位に)

調査をする→調査記録を標識センターに提出→標識センターのデータベース

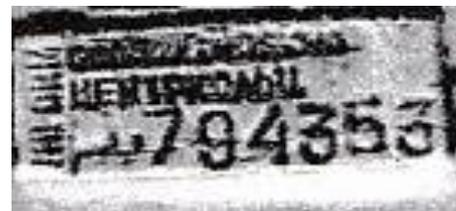
(これがあるから、足環を見つけても判る)→発見報告者へのお礼のシール

・データベースのデータは学術などの目的があって申請すれば誰でも使える

3年間はバンダーに優先権があるが、あとは国の事業なので国民が使える



(1)ユリカモメの渡り



1980年12月20日カム
チャツカ発(事前連絡
の番号の範囲！)の標
識ユリカモメ

P794353捕獲成功
鴨川における初回収
記録！

現在の連絡：ネットワーク活用

- かつては足環をみつけ(1978年12月)標識者と連絡する(1980年5月)まで1年半かかった
- [「ユリカモメに白Pの足環をつけたのは誰」とマガダンの女性がロシアのブログに書きこむ](#) (2014年3月19日)、3月25日には標識地(千葉・行徳)の標識者(佐藤達夫)と連絡がつく！
- ロシアブログ→ユーリングのカラーマーキングポータルサイト→日本鳥類標識協会カラーマーキング[ポータルサイト](#)→標識者との連絡！
- そのように活用できるネットを構築してきた！

(2)各地に冬に多数やってくるカモ類の渡り解明の調査

兵庫県伊丹市昆陽池のカモ類 調査 衛星発信機による調査

- オナガガモ、ヒドリガモの調査
- 環境省・東京大学が多数のカモ類やハクチョウ類に衛星発信機をつけて渡りを解明
- 東大の樋口広芳さんから「関西でカモ類に発信機をつけることができる場所はないか」と相談を受ける

衛星発信機をつけたオナガガモ



調査結果 マガダンまで行って繁殖

渡り鳥アトラスWeb版

- カルガモ(留鳥)、マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ(冬鳥)の渡りを見よう！
- 環境省生物多様性センターのサイトに
日本の金属足環による放鳥・回収記録が掲載
されている Google Earthで見ることができる

<http://www.biodic.go.jp/banding/history.html>

(3) 1991年からカムチャツカにガンの調査(＋ユリカモメの調査)で行けるようになった！

- ロシア科学アカデミー招待による日本雁を保護する会との日露共同調査に参加
- 1986年から(ソ連の時代から)交流の実績
- ジェット機：新潟→ハバロフスク→カムチャツカ(ペテロパブロフスクカムチャツキー)
- ヘリコプター：ペテロ→西海岸ズベズドカン湖(またはマコベツコエ湖)
- (オオ)ヒシクイの共同標識(首輪)調査
- おまけでユリカモメのコロニーへも！

滋賀県湖北地方は1950年代以降雁類(亜種
オオヒシクイ)の南限の渡来地

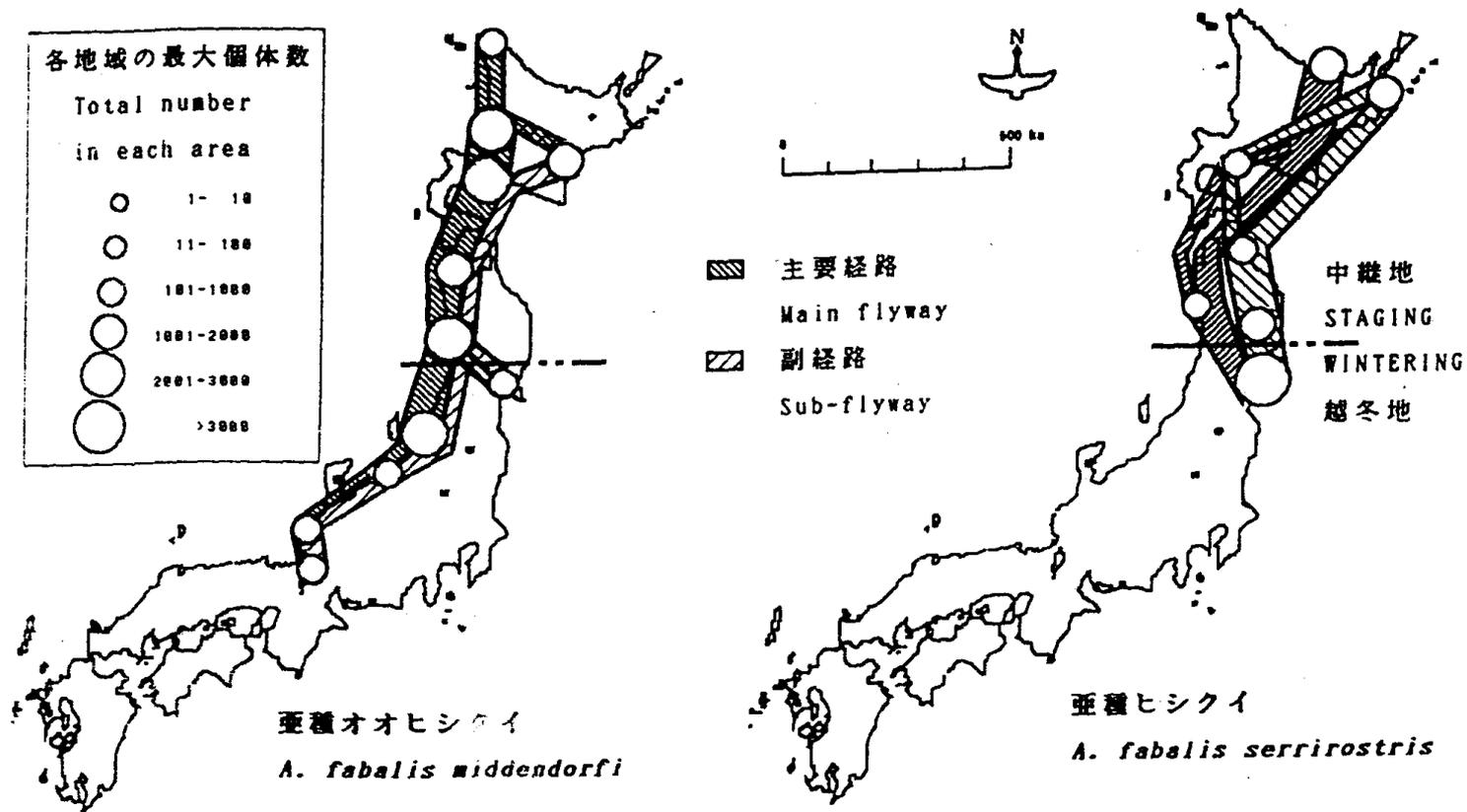


図1. 首環標識ガンの追跡調査から明らかになった日本国内におけるヒシクイ2亜種の渡りのルート
(Kurechi et al. in press)

Fig. 1 Flyways of *Anser fabalis* in Japan according to the results of neck-collar surveys

足環物語を越えて(使って)地域がどう つながるか？

- 地域の自然財(生物多様性)の保護
- 自然財の2種類の財産目録(インベントリ)
 - A. レッドデータブック⇒種(スピーシズ)の財産目録
 - B. 生息環境の財産目録⇒ハビタット・インベントリ
- 大切な場所を総覧して、多くの人にその場所の価値を伝えて保護につなげる

(1) [ガン類渡来地目録](#)(1994)

(2) [近畿ツバメ類ねぐら地目録](#)(1999)

(3) 関西鳥類標識調査地目録(試作)(2018)

(1) ガン類渡来地目録作成による劇的変化

- 渡来地の開発行為が回避・抑制される
- 改変工事がある場合も事前にきめ細かいうちあわせがあって影響を最小にする工夫
- 地域の宝として雁類の渡来地を環境教育やエコツアーなどの場として活用する工夫
- 日本の重要湿地500(2001～)などに取り込まれて公的にも保護する方向ができた
- ガン類渡来地目録は「触媒的役割！」(自然ときづく→いちいち要望書を送る必要がなくなる)

(2) ツバメの集団ねぐら地の保護

- きっかけは1980年頃に宇治川河川敷のヨシ原を破壊しての公園計画が発生
- ツバメの集団ねぐらとして大切なヨシ原の保護を訴えるための調査として標識調査も継続
- 調査してツバメの集団ねぐらの価値を明らかにして、観察会やメディアに報道されると保護されるという流れが判る。
- 近畿地方にあるツバメの集団ねぐら情報をあつめ保護をよびかける→須川恒(1999)

(3) 関西鳥類標識調査地目録(試作)(2018)

- 1960年代からはじまった関西の標識調査の歴史を紐解くために、さまざまな環境の標識調査について基本的情報、成果や課題をまとめた目録を作成する試みを進行中
- 近畿の10ヶ所および近畿に関係の深い福井の2ヶ所計12ヶ所の調査地について目録を試作
- 年別の経過という視点から見るのが面白い

ALILA アルラ: 関西発標識調査同人誌

- アルラは小翼羽。着地等の際に失速を防ぐ。
- 年2回発行。会費は2000円。
- 兵庫のバンダー山根みどりさんが世話人。
- フェスのブース展示の場で紹介(今回は11月18日に山根さんが秋号持参(目録記事あり))
- 調査地の報告、エッセーなど、バンディングにかかわる原石のような情報がてんこ盛り！
- 関西鳥類標識調査地目録は毎年のてんこ盛りの情報をまとめる役割も持つ

(1) 世界の標識調査者の会議

- 4年に1回の国際鳥学会議の際に世界の鳥類標識関係者が集まり、調査事業を効果的に進めるためのガイドライン作成など議論
- 国としての標識調査機関の充実に加えて、日本鳥類標識協会のような支援団体の役割も大きい
- ユーリングや南北アメリカ大陸にあるような国を越えた標識調査機構構築が東アジアの課題

日本鳥類標識協会大阪大会！

- 全国からバンダーが大阪に集まる！
- 2018年12月8日(土)午後から9日(日)午前
- 南港のホテルフクラシアにて
- シンポジウム(大阪発の鳥類標識調査！)、
- 一般講演会、懇親会、宿泊(語合い楽しい)
- 非協会員でも参加可(余裕あり?)
- 11月17日18日ブースにいる大会実行委員長の熊代直生さんに申し込んでください。

(2) 標識調査(バンディング)の世界と 探鳥(バーディング)の世界がつながる話 標識調査で必要とされる技術

部分的にでもできると大群通過の際に手伝うことができる

- 網から短時間で鳥をはずせる。
- 鳥種の識別ができる。
- 足環を正しくつけることができる。
- その個体の年齢(成幼など)や雌雄を判断できる(不明の場合もある)→識別ガイド
- それらをただしく記録として残せる。
- 網をはったり、かたづけたりできる。

ヨーロッパ産 スベンソン スズメ目の識別ガイド

Identification Guide to European Passerines

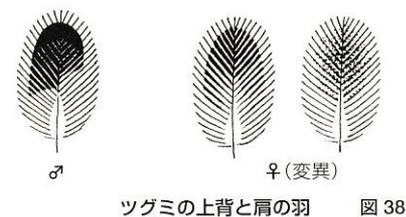
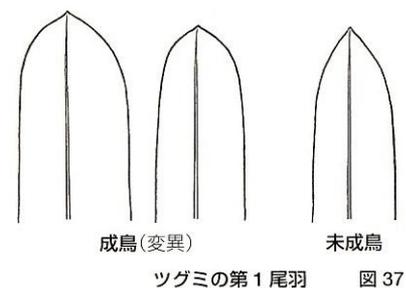
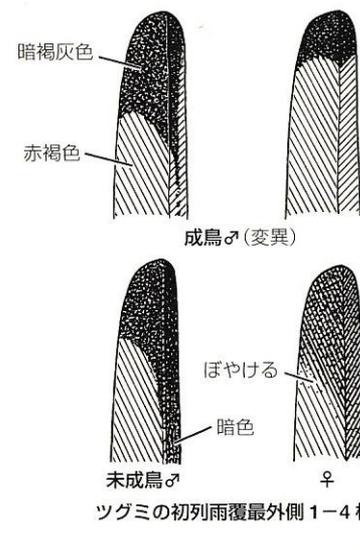
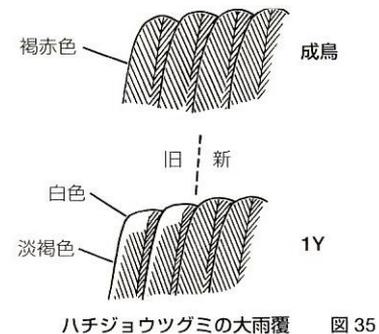
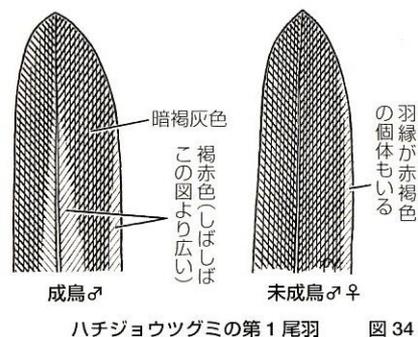
Lars Svensson 著

村田 健 訳

尾崎清明・茂田良光 監訳



文一総合出版



「スベンソンの教え！」 捕獲されたツグミの尾羽を見ることで、成鳥かその年うまれの幼鳥かが判り、初列雨覆の外側の羽のパターンから雌雄が判る。

[スベンソンさん](#)は野鳥観察の点からもすごい人⇒ゲスト 大西敏一さん

(3)世界中の湿地保全の仲間が つながる話 ゲストスピーチ2 植田潤さん

- 湖北野鳥センター(1988年～)
- 琵琶湖がラムサール条約湿地に登録(1993年)
- 琵琶湖水鳥・湿地センター(1997年～)

湿地センターはラムサール条約の役割を伝えるのが目的

湿地が大切なことをさまざまな切り口から学んで行く→毎年2月2日を中心に世界湿地の日の活動を2011年2月から開始

2011年2月24日の世界湿地の日

- カムチャツカからニコライ・ゲラシモフ親子がやってきた機会を活かしラムサール条約40周年を祝う会をした。
- 「ラムサール条約40周年おめでとう」と日本語・英語・ロシア語で[参加者がお祝いした動画](#)をYoutubeにアップ
- スイスの事務局に報告したら「とてもすばらしい！」とすぐに返事が来た(東日本大震災直後でもあったので)

([案](#))2019年2月3日(日)世界湿地の日

- 琵琶湖水鳥湿地センター 9:30集合 探鳥会
- 11:00探鳥会のまとめに引き続き
- 今年のテーマ(湿地と気候変動)についてのプレゼン、
- こどもラムサールの報告など 茶話会 ~12:30